学生会員の声

●留学生活と化学工学●

この度はこのような執筆の機会をいただき，誠にありがとうございます。

私は中国の江蘇省の出身です。現在，日本大学大学院の修士一年生で「装置産業における安全文化の評価」をテーマに，日々研究に取り組んでいます。来日前は，日本の文化や先進的な技術に強い興味を持っていました。現在は日本で実際に生活することで，教科書やインターネットだけでは得られない貴重な経験を数多く積んでいます。本稿では，来日後現在に至るまでの軌跡を記したいと思います。

小さいころから外国の文化や外国語に関心があった私は，中国では当たり前のことが他の国ではそうではないこと，一つのことに対して異なる価値観や文化の違いが不思議でした。初めての海外旅行先だった日本では，最先端の技術で出来上がった便利で美しい都心の風景と，日本の伝統的な下町の風景が交わっている独特なバランスの雰囲気に，大きなインパクトを受けました。日本は中国と同じアジアの国で，距離も近く生活にも慣れやすいと思います。このように私にとっては文化圏の近い国でありながらも，中国とは異なる日本らしい文化に触れあえることに魅力を感じ，高校卒業後日本へ来ることを迷うことなく決めることができました。

一番印象深い日本の魅力は，美しい桜です。春になると，日本では花見を楽しむ風習があり，日本の春らしい風景を満喫できます。特に，私の通学している日本大学津田沼キャンパスの桜の美しさには毎年感動し，桜の花びらが舞い散る光景は，一瞬一瞬が美しく，心に残ります。桜の季節は短いものですが，その儚さがまた魅力の一つと思います。

今までの留学生活を振り返ってみると，特に大変だったのは大学の入学試験でした。中国では全国統一試験が一度だけ行われ，その結果で大学の入学が決まります，日本では私立大学の場合は，各大学で実施される入学試験を受けなければいけません。大学までの経路に不安を感じ，日本語も十分とはいえない状態で面接試験を受けたとき，緊張で体調を崩してしまうほどでした。しかしながら，あの時の経験は，今ではいい思い出になっています。

大学に入ってからは，多くの新しい友達と出会うことができ，またたくさんの興味深い授業がありました。例えば，1年生の時は化学実験の講義がありました。学生実験自体は，グループワークでガラスを用いて実験器具の作成やカメラでのサンプルの観察などでしたが，実験結果が自分の想像していたものとは異なるものが多く，化学の面白さを実感しました。学部3年から，安全工学を研究する三友研究室に配属されました。初めての研究生活に慣れようと必死だった一方，自分の成長も実感することができました。卒業論文は，安全文化の視点から知床遊覧船事故の事故解析を行いました。解析方法としては，日本国内のガイドラインを基にした安全文化8軸モデルを用いてチェックリストを作成し，事故調査報告書を基にリッカート尺度で各項目の評価を行ないました。その結果，会社の運航管理体制の欠如が事故の発生に重大な影響を及ぼしたことが明らかになりました。

卒業後は，そのまま日本大学大学院に進学しました。大学院の研究課題として「装置産業における安全文化の評価」をテーマに選びました。理由の一つは，春休みに中国で父が働いている製鋼所を見学した際に，工場での安全規則の厳しさが印象に残ったためです。現在，プロセス産業界の事業所において，安全文化の醸成レベルが労働災害及び重大な産業事故の発生に重要な役割を果たすことが認識されてきました。しかしながら，安全文化の構成要素や重要な視点は産業界ごとに理解が異なり，その診断手法及び安全文化の改善に向けた活用には，未だ多くの課題があります。今は大学院一年でわからないこともありますが，これからの研究で大規模装置産業においての安全文化の構成要素を明確にし，事業所の安全文化を評価できる診断手法の開発について研究を行いたいと考えています。この先も，これまで以上に化学工学をはじめとする幅広い知識が必要になると思われます。自由に研究ができる学生生活を大事にして，将来研究者として社会に貢献できるようになりたいと考えています。

（日本大学生産工学研究科マネジメント工学専攻　郭嘉誠）

著作権法により無断での転載等は禁止されています